

## はじめに

2011年3月11日の東日本大震災により東京電力(株)福島第一原子力発電所が重大事故を起こしてから5年余が過ぎました。NHKスペシャル「原発メルトダウン、危機の88時間」(2016年3月13日放映)は、事故発生当時の混乱した状況と原発の恐ろしさをCGも駆使して再現し、解説を加えた内容でした。事故後に実施された原発の安全対策や見直しなどは少しも紹介されていません。事故後、強い権限を付与された原子力規制委員会が設置され、新たな厳しい規制基準による審査がなされてきました。しかし、ほとんどのメディアでは審査の内容や改善された設備に触れていません。その結果、多くの国民が原子力に対する不安感や不信感を今なお抱き続けています。公平な情報に基づく報道が必要ではないでしょうか。

日本人が経験した悲惨な原爆と今回の強烈な原発の爆発シーンが脳裏に焼き付いて消え難く、放射線は怖いから避けたいと思うのはもっともなことでしょう。しかし、原発をゼロにして、クリーンな太陽光と風力発電を導入すればエネルギー問題は簡単に解決できるのでしょうか。これまでのエネルギー政策では、中東戦争の勃発による所謂「オイルショック」を契機に原子力発電を導入し、火力発電を減らす戦略に大転換しました。この決断は、日本のエネルギー安全保障、経済発展、そして地球温暖化の防止に大いに貢献してきました。

そこで、もう一度、歴史を振り返るとともに、今回の福島原発事故がなぜ起こり、事故後どのような対策がなされ、今なお残されている課題は何か、という質問や誤解に答えるために本冊子をまとめました。執筆に当たっては、できるだけ公平に事実を取りあげ、平易な表現に心がけました。次代を担う若い世代、学生、子供たちを想う主婦、先生、将来を考える大学院生、専門家、アーティスト、若手ジャーナリスト、報道関係者、地方議員、国会議員、そして経験豊かなシニア世代にこの冊子を手にとって欲しいと思っています。そして、“原子力誤解”の本質と、“誤解の解消”が日本の将来にいかに重要であるかに関心を寄せていただき、多くの方々に理解されることを心から願っています。

## ■本冊子の読み方■

本冊子は、3部で構成されています。第一部の「原子力の誤解」Q & A では、国民の典型的な“誤解”に着目した質問と回答の形式とし、①エネルギー安全保障、②放射線と原発の危険性と安全性、③地層処分を取りあげました。人間はなぜ“誤解”するか、その“誤解”にどう対処すればよいか、を考えるために“登山電車方式”を導入してみました。第二部の「原子力誤解」の分析評価では、①誤解とはいったい何か、②原子力に特有な情緒的な“原子力誤解”について深く考察しました。第三部は資料編とし、第一編の内容を補う【豆知識】と【出典】をまとめました。本冊子の目次を手掛かりにどこから読み始めていただいても構いません。なお、各ページの →印 を参考に【豆知識】や【出典】を探すことができます。

## ■登山電車方式■

原子力の誤解を分析・評価する方法として“登山電車方式”を導入しました。ここでは、始発が“誤解駅”、次が“科学駅”、3番目が“常識駅”、4番目が“情緒駅”、最後の駅が“アイデア駅”としました。

原子力の誤解には、科学的な理解のほかに『数量』や『情緒』が重要な要素であることから“常識駅”と“情緒駅”を設けました。

登山電車の車窓から風景を眺めながら質問と回答の対話を交わします。このプロセスを4段階に別けました。第一のプロセスが“誤解駅”から“科学駅”に至る、現象を科学的に考える「理解電車」、第二が“科学駅”から“常識駅”に向かう、常識的・数量的に考える「常識電車」、第三が“常識駅”から“情緒駅”に向かう、個人の情緒を考える「情緒電車」、最後のプロセスが“情緒駅”から“アイデア駅”を目指す、行動を考える「志の電車」です。

終着の“アイデア駅”に到着して広がる光景を見渡すと、原子力に対する理解がこれまでと違うようになるかも知れません。

